

# いつも一緒 富山のペットたち



けいれんが起きた、と青い顔をして飼い主さんがいらっしやいました。診察室に入ると当のワンちゃんはケロツとして、なんともなさそう。飼い主さん、あらためてワンちゃんを見て、「今は普通だけど、さっきは大変だった突然ひっくり返って、ぐーっと体が硬くなって、その後カクカクとけいれんを起していた。亡く

なるのではないかと心配で心配で」とお話しされました。こんなこと、実はよくあるのです。

皆さんは「てんかん」という病気が、ワンちゃんやネコちゃんにもあるのを存知でしょうか？ 実は、ワンちゃん、ネコちゃんの脳の病気で一番多いと言われるのが「てんかん」です。前述のような発作は最もよく気付かれ、飼い主さんに大きな不安を与えます。何かが引き金となることもあり、突然等兆なく始まる場合もあります。

## 命落とすケースも

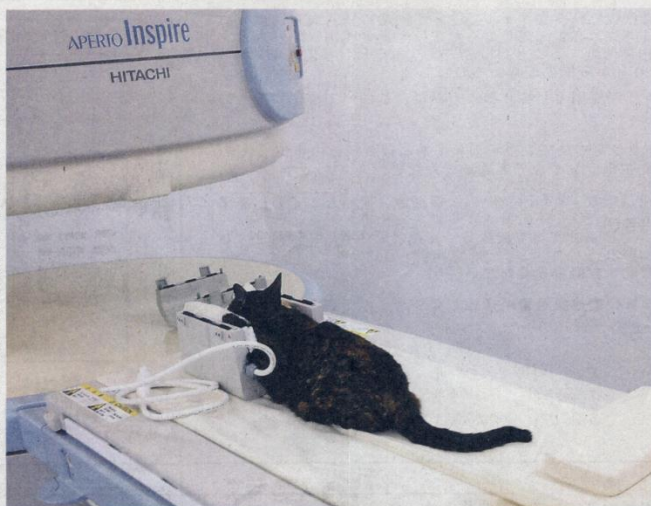
「てんかん」の発作は、全般発作と焦点性発作に分類されます。

全般発作は初めに全身の筋肉が突っ張るようけいれんし、伸ばす筋と曲がる筋が交互に収縮します。意識はなく、目が回り、ハアハアして舌の色は紫。

よつや動物病院院長  
(高岡市四屋)

和田 章秀

## 犬猫のてんかん



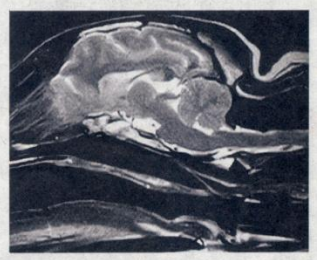
MRI検査を受ける猫。医療機器の充実により、犬や猫のてんかんの分類や診断が容易になっている。よつや動物病院

# 脳の異常興奮で発作

このような発作は通常2、3分以内に収まります。その後はなんともなかったように歩き始めることが多く、病院にいらした時には異常が認められないケースがよくあります。見た目には普通でも、脳の中では異常な興奮が残っている場合が多く、次の発作が起きやすい状態となっていることがあるので注意が必要です。

全般発作は、脳全体の異常興奮が原因です。発作が5〜10分以上続く場合を重積発作、24時間以内に2回以上の発作がある場合を群発発作と呼びます。場合によっては命を落とすことがあることが多く、非常に危険です。

一方の焦点性発作は、脳の一部分のみで興奮が認められるもので、意識がある状態で起きます。ハエをかむような動作をしたり、体の一部が動かなくなったりするほか、けいれんすることもあります。心臓発作と見分けることが重要で、超音波検査などで心臓疾患の有無を確認する必要があります。



特発性は遺伝

てんかんは「特発性てんかん」と「症候性てんかん」に分けら

れます。

「特発性てんかん」は、遺伝的な要因によって起こるとされ、多くが1〜5歳で初めて発作に見舞われます。「一般的に「てんかん」と言われている病気は、この「特発性てんかん」を指すことが多いようです。頻度や発作の重症度によっては、けいれん止めの薬を飲み続ける必要があります。

「症候性てんかん」は、脳の発作の原因が特定できるものです。具体的には「脳炎」「脳腫瘍」「水頭症などの脳奇形」「脳梗塞」などです。脳の病気によって治療法やその後の容態は異なります。てんかんの種類をしっかりと区別することが必要です。

脳の病気を特定するには、脳波や脳脊髄液を調べたり、磁気共鳴画像装置（MRI）やコン

特発性てんかんを起した犬の脳の画像。異常な点は見当たらない

ピューター断層撮影（CT）などで検査したりするのが一般的です。特にMRIは有用性が高いとされています。

飼い主さんに多くの不安を与える「てんかん」ですが、技術や医療機器の充実により今まで難しかった分類や診断が進んでいます。適切な治療が施され、多くの動物が苦しみから救われると同時に、飼い主さんの不安を少しでも取り除くことができればと思います。

「いつも一緒 富山のペットたち」は、毎月第1木曜日に掲載します。